

農薬の適用病害虫の範囲及び使用方法

令和7年1月15日現在

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアンコリアプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバチ類 オオタバコガ シロイチモンジヨトウ	2000～ 4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)
	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバチ類 オオタバコガ シロイチモンジヨトウ アザミウマ類 アブラムシ類	20倍	1～2L /10a			無人航空機による 散布	
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍					
はくさい	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバチ類 シロイチモンジヨトウ	2000～ 4000倍	100～ 300L/10a			無人航空機による 散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)
	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバチ類 シロイチモンジヨトウ アブラムシ類 キスジノミハムシ	20倍	1～2L /10a				
	アブラムシ類 キスジノミハムシ	2000倍					
だいこん	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ カブラハハチ類 ダイコンハムシ	2000～ 4000倍	100～ 300L/10a			無人航空機による 散布	4回以内 (は種時までの 処理は1回以内、 は種後の処理は3回以内)
	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ カブラハハチ類 ダイコンハムシ アブラムシ類 ハモグリハエ類 キスジノミハムシ ヨトウムシ	20倍	1～2L /10a				
	アブラムシ類 ハモグリハエ類 キスジノミハムシ	2000倍	100～ 300L/10a				
	ヨトウムシ	4000倍					

(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数				
ブロッコリー	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイモシヨトウ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以 内、定植後の処 理は 3 回以内)				
	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイモシヨトウ アザミウマ類 アブラムシ類	20 倍	1～2L /10a			無人航空 機による 散布					
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000 倍									
トマト ミニトマト	オオタバコガ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a			収穫前日 まで	3 回 以内	散布	5 回以内 (定植時まで の処理及び定 植直後の株元 灌注は合計 1 回 以内、定植後の 株元灌注は 1 回 以内、定植後の 散布は 3 回 以内)		
	ハモグリバエ類 コナジラミ類 アザミウマ類 アブラムシ類 トマトキバガ	2000 倍									
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類 ウリノメイガ ウリハムシ	2000 倍									4 回以内 (定植時までの 処理及び定植 直後の株元 灌注は合計 1 回以内、定植 後の散布は 3 回以内)
	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヨトウムシ ウリハムシ類 シロイモシヨトウ	2000～ 4000 倍								4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以 内、定植後の処 理は 3 回以内)	
レタス 非結球レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヨトウムシ ウリハムシ類 シロイモシヨトウ ハモグリバエ類 アブラムシ類	20 倍	1～2L /10a					無人航空 機による 散布			
	ハモグリバエ類 アブラムシ類	2000 倍									
ピーマン	オオタバコガ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a					収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (定植時まで の処理及び定 植直後の株元 灌注は合計 1 回 以内、定植後の 散布は 3 回以 内)
	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類	2000 倍									
ししとう	オオタバコガ	2000～ 4000 倍									
	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類	2000 倍									

(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数
いちご	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 チハクハネ科ノコ ハエ カキノヒメヨコバイ	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (定植時までの 処理及び定 植直後の株元 灌注は合計 1 回 以内、定植後 の散布は 3 回 以内)
	ハスモンヨトウ	2000～ 4000 倍					
アスパラガス	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫開始 3 日前 まで		散布	3 回以内
	アザミウマ類						
オクラ	アブラムシ類	2000 倍					
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシクイガ アブラムシ類	2000～ 4000 倍	0.8～ 2.4L/10a	収穫前日 まで		無人航空 機による 散布	4 回以内 (は種 前の処理は 1 回 以内、は種後の 処理は 3 回以 内)
		32 倍					
だいず	ハスモンヨトウ マメシクイガ アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで		散布	4 回以内 (は種 前の処理は 1 回 以内、は種後の 処理は 3 回以 内)
		32 倍	0.8～ 2.4L/10a				
さやいんげん	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで		散布	3 回以内
	ハモグリハエ類	2000 倍					
	アズキノメイガ	2000～ 4000 倍					
かぼちゃ	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	無人航空 機による 散布	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以 内、定植後の処 理は 3 回以内 (但し、株元灌 注は 1 回以内))	
	ハスモンヨトウ ハモグリハエ類	20 倍					
	ハモグリハエ類	2000 倍					
ねぎ	シロイモシヨトウ アザミウマ類 ハモグリハエ類 ネギコガ	20 倍	1～2L /10a		無人航空 機による 散布		
たまねぎ	シロイモシヨトウ ハスモンヨトウ ハモグリハエ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	散布	3 回以内	
	シロイモシヨトウ ハスモンヨトウ ハモグリハエ類 アザミウマ類	20 倍	1～2L /10a				
	アザミウマ類	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a				
にんにく	アザミウマ類 ネギコガ アブラムシ類	2000 倍	1～2L /10a	収穫 7 日 前まで	無人航空 機による 散布		
		20 倍					

(つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数
やまのいも	ナガ ^ド イモカ ^ク ハスモンヨトウ アブラムシ類 コガ ^メ ムシ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内
		40 倍	1～3L /10a			無人航空 機による 散布	
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカシ ^ロ シタ ^ハ アリモト ^キ ゾウムシ イモゾウムシ ヨツモンカメコハムシ ヒルカ ^オ ハモク ^リ ガ ^タ タバココナジ ^ラ ミ	4000 倍	100～ 300L/10a			無人航空 機による 散布	
		40 倍	1～2L /10a				
ばれいしょ	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～ 300L/10a			散布	
	ハスモンヨトウ アブラムシ類 ジャガ ^イ モカ ^ク	40 倍	2～3.2L /10a			無人航空 機による 散布	
	アブラムシ類 ジャガ ^イ モカ ^ク	2000 倍	100～ 300L/10a	散布			
にんじん	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	1～2L /10a	無人航空 機による 散布			
	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ キアゲ ^ハ	40 倍					
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ キアゲ ^ハ	4000 倍	100～ 300L/10a		散布		
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	2000 倍	2～3.2L /10a	無人航空 機による 散布			
	アヲノメイガ ^ク オオタバ ^コ カ ^ク ツマジ ^ロ クサ ^ヨ トウ アブラムシ類	40 倍					
	アヲノメイガ ^ク オオタバ ^コ カ ^ク ツマジ ^ロ クサ ^ヨ トウ	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	散布			
たばこ	ヨトウムシ タバコノミ ^ハ ムシ	4000 倍	100～ 180L/10a	収穫 10 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回以内

[ベネビア®OD製品ページに戻る](#)

【成分】 シアントラニプロール（通称：サイアジピル®）…10.3%

【性状】 類白色水和性粘稠懸濁液体

殺虫剤分類

28

効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

- アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- きゅうりに使用する場合、TPN を含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。
 - ①アズキシストロビンを含む農薬との混用はしないでください。
 - ②アズキシストロビンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。
- はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認してください。
- 使用量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用の場合は次の注意事項を守ってください。
 - 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - 2) 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - 4) 周辺作物及び周辺物に飛散しないよう特に注意してください。
- 過度の連用をさげ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調整に用いるなど、ほ場等で使用してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - ② 無人航空機による散布で巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ③ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてくだ

さい。また、地上散布では散布直後から1日後まではミツバチの巣箱を移動させるか、巣門を閉じてください。

④ 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。
- 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調整に用いるなど、ほ場等で使用してください。